

会議結果報告書

1 会議の名称

令和6年度第1回光市子ども・子育て審議会

2 開催日時

令和6年5月29日（水）14時00分から15時30分

3 開催場所

光市総合福祉センター あいぱーく光 1階 いきいきホール

4 出席人数

委員18人中11人出席、事務局11人出席

5 公開・非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

ア 子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査結果について

配布資料1で説明

【質疑・意見等（要旨）】

（委員）

これは感想ですが、こどもが遊べる公園の整備について、就学前アンケート問37や自由記述を見るとニーズが高いことが分かりますので、今後、具体的に進んでいくといいのかなと思いました。

イ 第3期光市子ども・子育て支援事業計画の骨子（案）について

配布資料2で説明

【質疑・意見等（要旨）】

（委員）

こどもたちへのアンケートで、光市が「好き」と多くのこどもたちが回答していて非常に嬉しく感じました。一方で、気になったことがありまして、資料2の33ページには「子育てが楽しいと思う」との回答が非常に多い反面、「子育てが辛いと思う」との回答も高い結果となっています。私も何が辛いのだろうと色々考えてみたのですが、アンケートの中

にこどものことで休みをとりづらいというのがあり、そういったことがつらいと思う原因になっているのではないかと思います。そうしたことから、職場や社会全体で子育てを支える環境ができればよいと感じました。

(事務局)

骨子案の12ページに父母の就労状況が掲載されておりますが、特に母親の就労していない人の割合は5年前のアンケートより就学前で10ポイント、小学生で6ポイント減少しており、女性の社会進出が進んでいることがみてとれます。一方で、フルタイムで働く母親の育休取得割合は5年前のアンケートより就学前で3ポイント、小学生で1ポイント上昇しています。少しずつではありますが、女性の社会進出と育休を取得する環境の整備が進んでいるものと認識しています。ただ、委員が言われたように、女性の社会進出が進んだことにより、子育てと仕事の両立がづらいと感じる方もいらっしゃるのかなと思います。

(委員)

休みを取りやすい職場環境というのはすごく大事で、有休の取得などは義務的なものもありますが、それだけでは解決しないこともあるかもしれません。学校現場では有休や育休の取得のしやすさなど、変わってきたのか、現状について、いかがでしょうか。

(委員)

小学校の教員の状況ですが、育休をとる先生は増えています。以前は、こどもと向き合うために長く休んじやいけないと思う先生も多かったのですが、今は女性に限らず男性も取得する人が増えてきたので、社会全体が取りやすくなってきているんじゃないかと思います。また、先生が取得することで、保護者にもいいメッセージになるのではないかと思います。

骨子案11ページの子育てに関する悩みで1番多いのが、遊ばせ方、ゲームやSNSについてというところで、これは学校現場でも良く感じているところです。まず遊ぶところがない、公園などで遊んでいても「うるさい」と言われたりするので、家に集まってゲームをしたりするとのこと。保護者に聞いても、なかなか遊ばせるところがない、と言われます。遊ぶところがないということで、こどもたちが家に集まってゲームをしている。中には集まってではなく、ひとり、家でゲームをすることもあって、こども同士の交流もないという場合もあります。そういった意味では、こどもたちの遊べる環境の整備や外で遊ぶことの大切さを啓発するということも必要だなと思っています。

併せてなんですが、保護者の子育てに関する悩みなどを共有できるよう、保護者同士のつながりを持てる場というのを作ることも必要ではないかと思います。

(委員)

私のこどもが通っている小学校でのお話をさせていただければと思います。参観日ですが、保護者の就労が増えたことによるものなのか、保護者の方の参加率は減ってきています。中学校の参観日になると、参加率はさらに低下していますが、そのような中でも年に1回程度、土曜日に参観日を開催すると参加率もあがります。お子さんが大きくなって就労を開始される方も増加していると思いますので、お休みの取りやすさと相関関係があるのか

なと思います。

(委員)

骨子案 24 ページで、「今困っていること、悩んでいること」という質問で、将来・進学のことという回答が最も多くなっています。今、私はクラブチームで中学生を教えています、中学 3 年生の子たちが、進学先について相談してくる場面があり、まずは、自分がこうしたいという意味みたいなのが少し弱いのかなと思うことがありました。

(委員)

光市が子育てに関していろんなことをしていることに驚きました。今までは、支えられる側だったので、こうした政策などは実感できなかったのですが、今後は支える側として、日々生活していかなければいけないと感じました。

(委員)

アンケートの回収率が、前回より上がったことについては、保護者の方がこのアンケートに期待をして回答したのではないかと思います。そのような中でも、半数の方が回答していないということについて、やはりみなさん、お忙しいのも影響しているかもしれません。お母さん方が感じているのは、夫や家族の理解、職場の理解が大事ということではないかと思います。また、少しほっとしたのが、子育てが楽しいと回答した人が多いことですが、中には子育てがつらいと回答している人もいます。ほとんどの方は子育てが楽しいけれども時につらいと思うこともある。これは、自分の時間が取れなかったり、忙しかったりすることがつらいのではないかと感じております。

遊ぶところがないことに関しては、雨が降った時は家の中になるし、どうしたらよいのか。チャイベビの存在は専属の先生がいて、大変ありがたいが、遊ぶところが少ないというのはお母さん方からの意見も聞いて、私もそのように感じています。

(委員)

今のご意見の中で、アンケートに回答していない 50%弱の方の意見については、どのように把握していくのか、意見をキャッチしていく機会をどのように作っていくのか。事務局の考えをお示ください。

(事務局)

チャイベビには専門の職員がおりまして、主な機能としては子育ての相談ということもしており、そういったところに出てくるご意見なども参考にしていきたいと考えております。また、今年度から出前講座で子育てやこどもの権利といった新しい項目として設けておりますので、様々なツールを使って保護者の方の意見を聴いていきたいと思っております。

(委員)

ただいま説明を聞く中で、第 2 期計画の評価をするというのが大変難しいと私自身も感じています。コロナの影響を受けていても数字が上がった、下がったという評価をせざるを得ないと思います。私も現場を抱えているのでアンケート結果に関しては参考にしたい部分はたくさんあります。おおむね保育所利用は満足していただいているという結果ですが、子育てに不安を抱えている方もたくさんいるので、保育所や幼稚園での相談機能というの

も大切にしていきながら、取り組んでまいりたいと思います。また、計画策定において、この評価を受けて、次期計画の数値はどのように作っていくのか、コロナの影響・評価を踏まえたうえでの策定というのをお願いしたいと思います。

(委員)

こどもの遊び場が無いというところで、こどもが自分の住んでいるエリアをよく知っていれば遊び場っていくらでもあるなと思います。例えば、近所の空き地で遊ぶとか、近所のおばあちゃんの家で猫と遊ぶとか、友だちの家に赤ちゃんがいるから一緒に遊ぶとか、アンテナを広げれば意外と遊び場はあるのではないかと思います。何かを整備するとかではなくて、保護者や大人が導いてあげればよいと思いました。

先ほど委員がおっしゃっていた中高生が悩んでいるこどもの将来の夢に関することでは、こどもの遊び場と将来の夢というのがつながってくると考えています。他市の事例で、こどもたちに地域の課題に自主的に取り組んでもらう活動があるが、そういった活動を通してこどもたちが将来の夢を持つということもあるので、こどもの主体的な活動と遊びを結びつけることで、こどもの将来に対する悩みや不安の解決にもつながるのではないかと思います。

(委員)

子育てと仕事の両立が課題であると感じています。保育の現場でも家庭によって休みの取りやすさが全く違って、体調が悪くてもすぐお迎えに来るご家庭もあれば、17 時まで預けたいというご家庭もあります。最近は、時間休や半日休など様々な休み方をする会社も増えてきて、少しずつではあるが、休みやすい環境もできているのではないかと思います。

ウ 特定教育・保育施設の利用定員について

配布資料 3 で説明

【質疑・意見等（要旨）】

なし

7 閉会